



「つや姫」栽培管理情報 第3号

～1.9mm ふるい目に対応した米作りへの挑戦～

平成29年7月24日 島根県農業技術センター技術普及部

7月に入り生育が加速 出穂早まる！

今後の水管理とカメムシ防除を今一度確認

「つや姫」マイスターの各ほ場では、6月下旬より幼穂形成期に入り、最も早いほ場では、7月19日に出穂期を迎えました（裏面参照）。6月は、気温がやや低めで、生育が落ち着いた様子でしたが、7月に入り、好天で気温が高めの傾向にあり、出穂が早まった様です。

また、県内全体の生育状況は、目立った病虫害の発生がなく概ね順調です。幼穂形成期では、葉色が平年並みからやや濃く、茎数が平年並みからやや多い傾向です。

さて、中国地方の1か月予報（7月13日 広島地方气象台）では、「つや姫」の登熟期間の前半にあたる、7月15日から8月14日の間、「平均気温は、高い確率70%です」となっており、厳しい気象条件となりそうです。

また、病虫害発生予察情報・発生予報第5号（7月14日 島根県）では、7月下旬から8月上旬は、「やや少ない～平年並み」の病虫害が多い中、「斑点米カメムシ類がやや多い」としており、斑点米の発生が懸念されます。

こうした中、当面の管理として水管理とカメムシ防除を今一度確認し、今年の‘猛暑’をのりきりましょう。

1 当面（出穂期前後～成熟期）の栽培管理ポイント

□適切な水管理

- ・基本的には、間断かん水を徹底し、根を健全化し、老化を防止
- ・かん水は、水温の低い夜間に行うと良い
- ・特に、出穂期前後は、干ばつ害やフェーン現象などの気象災害を受けることが多いので、水不足とならないように注意
- ・登熟期間における早期落水は、減収や白未熟粒の発生を助長するので、穂揃い期以降は、出穂後25日頃まで間断かん水を継続
- ・落水以降でも、過度に乾く時は、走り水かん水を行って水分を補給

□カメムシの適期防除

- ・周辺雑草の草刈りは、出穂直前になってからは行わず、出穂10日前頃までに終了
- ・穂揃い期頃の防除を徹底
- ・カメムシ類は広範囲に移動するので、地域で一斉に防除

2 「つや姫」普及実証ほの生育状況

益田管内では、5月3日植えのほ場で、7月19日に収穫期を迎えました。葉色（SPAD値）は、35.3～37.6です。収穫期の適正な葉色イメージ35以内（「つや姫」栽培の手引き）と比べ、やや濃い状況です。

なお、写真は、田植えが最も早かった、安来管内4月28日植えのほ場です。



〔写真1 7/20撮影〕 4/28植：安来市飯生町
収穫期：7/20
葉色（SPAD値）：39.5

☆適期収穫等、収穫作業のポイントについては、次回お伝えします
収穫に向けて、機械の点検、掃除などの準備を早めをお願いします

問い合わせ先 農産技術普及課 松崎、野津 TEL(0853)22-6967